

九都県市合同防災訓練（埼玉県会場）を開催

埼玉県北本市くらし安全課

北本市は埼玉県の中央部に位置し、大宮台地上のほぼ平坦な地形で、地震や水害などが少なく「災害に強いまち」として評価されています。しかしながら、確率は低いものの、本市が震源地となり、震度7となる地震が想定されていることから、本市では市民による備蓄や家具固定の啓発に取り組んでいます。

そうしたなかで、令和4年8月に埼玉県と共催で九都県市合同防災訓練（埼玉県会場）を実施しました。訓練の目的として、防災関係機関の相互連携強化や自助・共助の意識高揚などを設定し、救出救助訓練等の実動訓練と市民参加型の防災フェアの2本立てで開催しました。当日は雨天にも関わらず約6,700人が来場し、大規模な訓練となりました。

実動訓練としては、例年、他団体が3時間で実施していた訓練内容を削ることなく2時間に短縮して、実践的な訓練を行い、約100人の自主防災会や地元高校生などを含む多くの防災関係者が参加しました。当日の様子はYouTubeでリアルタイム配信し、当日の視聴回数は2,000回以上、12月末現在で4,000回以上と注目を集めました。

本市が企画運営を担当した防災フェアは、「楽しみながら学ぶ」をテーマに、小学生や保護者をメインターゲットに据えて実施しました。当日は、防災脱出ゲームや捜索救助犬とのかくれんぼ対決などの訓練に長蛇の列ができるほど多くの来場者で賑わいました。さらに防災フェアはスタンプラリー形式で開催し、スタンプが集まったら日本一の北本トマトカレー、自衛隊カレー、武蔵丘短大考案のカレーの3つから選んで試食できる炊出し訓練を実施したこともあり、来場者が積極的に訓練ブースを巡っている姿が見られました。

また、当日の訓練を楽しむだけで終わらせないよう、市内店舗に様々な面で協力していただきました。訓練前は店舗内に大型看板を設置することで訓練について周知し、訓練当日は訓練会場で防災グッズの物販



やクーポンの配布、訓練後には来場者が店舗に立ち寄り、実際に防災用品を購入したくなるような特設ブースやイベントを用意していただきました。

こういった取組は、「防災の必要性を感じつつも実際にはできていない方」が簡単に何かを始められるように意識し、企画したものです。その結果、上記市内店舗からは、「多くの方が来店し防災グッズを手にとっていた、大変大きな反響があった」とのご意見があり、今回の狙いである自助・共助の意識高揚を図ることができました。

来年度以降も住民一人ひとりの防災意識を高め、災害に強い街づくりを目指していきたいと思います。

【参考URL】

楽しみながら学ぶ防災訓練（九都県市合同防災訓練）を実施しました（2022年8月28日）

<https://www.city.kitamoto.lg.jp/soshiki/shiminkeizai/kurashi/gyomu/g14/1504143543387.html>



第43回九都県市合同防災訓練（埼玉県会場）リアルタイム配信

<https://www.youtube.com/watch?v=So40RJU3Lmo>



箱根大涌谷園地自然研究路における 救出救助訓練の実施について

神奈川県暮らし安全防災局 防災部危機管理防災課

箱根大涌谷園地の自然研究路は、平成27年の火山活動以降、観光客の立入りが規制されていましたが、令和4年3月に引率入場方式により立入りが再開しました。

県では、箱根町・自衛隊・消防・警察との連携と箱根大涌谷園地の安全対策の確認のため、令和4年12月8日（木）に救出救助訓練を実施しました。

訓練は自然研究路に観光客が立ち入る中で突発的に小規模な噴火が発生したという想定の下、箱根町は、転倒して負傷し逃げ遅れた観光客がいることを把握すると、直ちに県、消防、警察といった関係機関を招集し現地指揮所を開設しました。県は町からの依頼により自衛隊に派遣要請を行いました。箱根町消防本部がドローンを使用して自然研究路内を探索し、その情報

を元に、自衛隊・消防・警察は自然研究路の往路・復路・緊急避難路の3方向から探索を開始し、噴石から一時的に逃れるためのシェルター内等で逃げ遅れた観光客を保護、安全な場所まで搬送したところで訓練は終了となりました。

訓練終了後、菅原喜和・県応急対策担当課長は「箱根山は人気の観光地であるとともに、現在も噴火の可能性のある活火山であることから万が一に備え、本訓練のように関係機関が連携のとれる体制を構築することが重要である」と締めくくりました。災害による被害を軽減し、県民や神奈川県を訪れる皆様のいのちを守るため、県では今後も箱根町や関係機関と連携した訓練を実施し、防災・減災対策に取り組んで参ります。



現地指揮所の様子



警察による救助の様子



消防による探索の様子



自衛隊による救助の様子

あらゆる災害に備えた国土強靱化地域計画に基づく 全庁職員訓練の実施について

東京都八丈町総務課

東京都八丈町は、台風による風水害のほか、地震・津波災害、火山災害など、様々な災害の危険性がある地域であるため、あらゆる災害に対応する「地域強靱化」に取り組む必要があります。そこで、令和4年3月に「八丈町国土強靱化地域計画」を策定しましたが、策定後も、定期的に計画の進捗等を確認するとともに、適宜計画を改定し、計画の実効性向上を図ることが必要です。

このため、令和4年12月14日（木）に国土強靱化地域計画の策定を支援いただいた株式会社オリエンタルコンサルタンツの協力のもと、庁内各課の職員及び関係機関（東京都八丈支庁、八丈島警察署等）の職員を対象に、国土強靱化地域計画の活用による地域強靱化の必要性等の理解促進を目的とした訓練を行いました。

訓練の内容

訓練①：国土強靱化に関する講演

国土強靱化の理解を深めるため、ナショナル・レジリエンス（防災・減災）懇談会で防災担当も務められた中林一樹・東京都立大学名誉教授に、ご講演いただきました。

訓練②：八丈町における発生しうる災害映像の視聴

地域強靱化の推進には、「リスクを我がこと」として捉える必要があるため、3次元データを用いた八丈町の3Dマップに、津波や土砂・火山災害の想定結果を重畳した、災害イメージ映像を視聴することで、島内で発生しうるリスクの共有を図りました。



訓練（イメージトレーニング）の様子

訓練③：八丈町独自のリスクシナリオのイメージトレーニング

昨年度策定した国土強靱化地域計画で設定した最悪の事態（リスクシナリオ）について、具体的にどのような事態になるのか、7班に分かれ、5W1Hの観点で、リスクをより明確にするイメージトレーニングを行いました。

訓練の成果

災害イメージの3D映像を視聴し、参加者全員が島内のリスクを把握したうえで、イメージトレーニングを行ったことにより、リスクシナリオの具体化及び、その対応策の一例について検討することができました。

また、防災主管課だけでなく、庁内各課の職員や関係機関が連携して訓練を実施したことで、八丈町における災害態勢の強化につながりました。

おわりに

地域強靱化は、行政だけで達成することはできず、関係機関や民間企業等の主体的な取り組みが不可欠です。今後は、継続的に計画の見直しを行うとともに、地域住民や、民間企業等も巻き込んだ訓練を実施する予定です。



災害イメージの3D映像（訓練用）

厳冬期の防災総合訓練を実施しました

北海道総務部危機対策局危機対策課

北海道では、平成30年の胆振東部地震の被災経験^{いぶり}をきっかけとして、積雪寒冷地特有の課題に取り組むため、厳冬期の防災総合訓練を行っています。

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震・巨大津波による甚大な被害の想定に直面している今、道として道民の命を守るため、最も被害が大きくなる厳冬期における被害を軽減することが最重要課題であり、この訓練に力を入れて取り組んでいるところです。

今年度の訓練は、12月17・18日の1泊2日の行程で、滝川市において実施しました。当日は寒気に見舞われ、この時期としては例年のない低温・大雪となり、凍えるような寒さの中、雪かきに追われながら訓練に臨みました。

この訓練の大きな特徴は、避難所で宿泊を伴う訓練をすること。避難所の環境改善に取り組み、低体温症による二次災害やエコノミークラス症候群による災害関連死を防ぐため、停電・断水対策、トイレ、食事、就寝、暖房環境を整え、安全に避難所での生活ができるよう、参加者・関係機関と協力して訓練を実施します。

今回はこれに加えて、道の駅を一時避難所とした車中泊訓練と、大規模な立ち往生車両と多数の要救助者の発生を想定した救出救助訓練を同時に実施したこと

が、例年のない挑戦でした。

専門家の指導の下、学校体育館では、最低限の感染対策による早期の避難所開設・避難者の収容する手順を確認する訓練や、発熱剤を使用して湯たんぽや温かい食事を作成する訓練などを実施しました。

また、道の駅では、企業の展示・体験会場として、シェフの手によって生まれ変わった乾パンや缶詰等、災害時とは思えない防災食を提供したほか、一時避難所として安全な車中泊について行政側の視点に立った訓練などを実施しました。

さらに、救出救助訓練では、地元消防・警察・陸上自衛隊・DMATが参集し、現地調整所を立ち上げ、情報収集や救助方針の指示を出しつつ、各機関が連携して救助活動を行いました。

このように、多くの訓練に取り組むことで、参加者からは「避難所生活での不安がなくなった」、「訓練で経験することの重要性がわかった」などの声が上がっており、訓練は盛況に終わりました。今後は訓練の成果を広く普及・啓発していくとともに、課題の改善に取り組むことで、さらなる地域防災力の向上に努めていきたいです。



防災体制の確立と防災意識の高揚に向けて

熊本県南関町総務課消防交通係

新しい防災拠点の完成と総合防災訓練の実施について

南関町では、令和4年に新庁舎を核とした防災拠点施設を新たに整備し、それに合わせ5年ぶりとなる総合防災訓練を実施しました。訓練の目的は、災害対策基本法、南関町地域防災計画に基づき、南関町及び関係機関並びに地域住民が一体となって実効性のある訓練を実施し、防災体制の確立、防災意識の高揚による危機管理体制の確立を図ることです。震度6強の地震が発生したことを想定し、災害対策本部の設置から、避難訓練、救出訓練、炊き出し訓練等を行いました。

この訓練は、関係機関との連携強化も目的としており、県、消防、警察、自衛隊、消防団、社会福祉協議会、地域婦人会、防災士の会、自主防災組織など多くの関係機関にご協力いただきました。

訓練の概要

南関町役場敷地内にある防災広場及び荒尾消防署南関分署建屋等を利用し、自衛隊による救出救助訓練や、消防による救急救命訓練を始め、梯子車や熊本県防災消防ヘリコプターによる孤立者救助訓練を行いました。

また、指定避難所登録の施設である「南の関うから館」では、炊き出し訓練や、防災関連写真等の展示、熊本県危機管理防災課による防災関連講話を行いました。

訓練の成果

防災行政無線の合図等により、各自主防災組織による避難訓練や、災害対策本部での図上訓練、自衛隊等の派遣要請な

ど、災害を想定した実践的な情報伝達手段の確認ができました。

また、住民や消防団からは「自衛隊や消防の活動は災害時のシミュレーションとして勉強になった」「普段は見る事が出来ない自衛隊の救出活動および消防による救急救命活動や、梯子車や熊本県防災消防ヘリコプターにより実際に救助を行う姿は、防災について改めて考える機会になった」等のご意見をいただきました。

おわりに

本町は、平成28年熊本地震や令和2年7月豪雨による災害等を経験しています。防災訓練を通していつ起こるかわからない災害に備え、関係機関との連携による防災体制の確立や、住民のみなさまと共同した防災体制を築き上げていきます。



ホームページQRコード



親子で学べる車中泊避難体験イベント開催&VTuber登場「車中泊避難の心得」動画公開!

京都府福知山市危機管理室

車中泊避難は、コロナ禍で感染リスクを避けるために、避難場所で避難者の分散化を図る必要があることから全国的にも需要が高まっている避難方法です。これまで多くの水害を経験してきた福知山市では、市内の大型商業施設3か所と駐車場を車中泊避難場所とする協定を結んでおり、災害時には大型商業施設の駐車場への車中泊避難が多くあります。

・「車中泊避難体験イベント」を開催

2022年11月、参加者に避難方法の1つとして「車中泊避難」を認識してもらうことや正しい避難方法を学んでいただくことを目的に、小中学生を含む家族を対象に実際の車中泊避難場所であるイオン福知山店で「車中泊避難体験イベント」を開催しました。イベントの内容は車中泊体験のほかに炊き出し体験やドライブインシアター、地元ラジオ局である京都FM丹波放送公式VTuberほたんによるイベント進行、地元中学生防災グループによるクイズコーナーなど車中泊体験以外でも楽しめるようなものを用意し、防災に親しみをもってもらえるようなプログラムを企画しました。



イベントの様子



ドライブインシアターの様子

・車中泊避難をテーマにした動画を公開

2023年1月、福知山市公式YouTubeにて「【ポイント解説】防災VTuberほたと学ぶ!車中泊避難の心得」を公開しました。この動画は前述した「車中泊避難体験イベント」をもとに作成しており、イベントを通じて得られた車中泊の注意点、また車中泊を体験された参加者の皆さんの感想などをまとめ、避難の際の参考になるような内容になっており、公開から2週間で1,000回の視聴をいただいております。ぜひご覧ください。

ここから、動画の一部をご紹介します。

①車中泊避難のメリット・デメリット

感染症対策やプライバシー対策ができる等の良い点、過ごす空間が狭い等の悪い点など車中泊避難ならではのメリット・デメリットを紹介

②車中泊避難をする上での注意点

車中泊は狭い空間で長時間過ごすことで発症するエコノミークラス症候群や排気ガスが車内に流入することで一酸化炭素中毒になるリスクがあることから、安心安全に車中泊するための6つの注意点を紹介

③イベント参加者へのインタビュー

車中泊の準備をする際に工夫した点や車中泊での感想など、実際に車中泊を体験した方にしかわからない生の声を紹介

【ポイント解説】防災VTuberほたと学ぶ!車中泊避難の心得

<https://youtu.be/2iL2FxFxQcYVc>



このイベントは新入職員が母校である福知山公立大学の学生と企画し、開催しました。福知山市公式noteでイベントへの熱い想いをまとめておりますので、こちらもぜひご覧ください。

福知山市公式note

<https://fukuchiyama-city.note.jp/n/5n5b4a0ed59c28>





手づくりの紙芝居や人形劇で子どもたちに「命の大切さ」や「人への思いやり」を伝える

心のあかりを灯す会会長の鈴木裕子さん（左）と練馬区危機管理室区民防災課の佐藤莉奈子さん



心のあかりを灯す会

練馬区を中心に活動する「心のあかりを灯す会」では、小学校や保育園・幼稚園、児童館などに出向いて、手づくりの紙芝居や人形劇などを通じて子どもたちに防災教育を行っています。

活動のきっかけは2002年に遡ります。練馬区防災課が区民との協働で開催した「災害に負けないで頑張ろう！灯そう希望のあかり」（1995年の阪神・淡路大震災を伝承する行事）の実行委員として、当時避難拠点運営連絡会（練馬区では区立小・中学校を災害時の「避難拠点」と定めている）に関わっていた鈴木裕子さんに声をかけたことでした。そこから20年、防災課を事務局に、大震災の体験者でもある鈴木さんを会長として、学校の防災訓練などを通じて、子どもたちに命の大切さや人への思い

やりを伝え続けてきました。

「地震が起きた時にどうすればいいのかを紙芝居や人形劇を見せた後、子どもたちに実際にやってもらいます。手作りの地球の模型を使って、『なぜ地震が起きるのか』もわかりやすく教えています。目で見て、耳で聞いて、興味をもってもらえるように工夫しています」（鈴木さん）。

会には鈴木さんを含めて4人の阪神・淡路大震災の体験者がいます。当時の写真を見せながら体験談を話すと、子どもたちはわがことのように真剣に聞くそうです。

『なぜ防災訓練をするのか意味が分かりました』と言ってくれた子がいて、心に届いているのだなと思いました。みんな真剣なので怖くなったり心配になったりする子もいます。『きちんと備えをす

れば大丈夫』と先生や保護者と一緒にフォローをすることも大事です」（鈴木さん）。

2014年からは食の観点から災害を考える取り組みも行っています。電気、ガス、水などのライフラインが止まった時でもおいしく食べられるサバイバルレシピを載せた冊子「食と防災」も制作し、実際に作って食べるイベントも開催しています。

「楽しくなければ続かない」と鈴木さんは話しますが、異動などで担当が変わるなかで、行政と区民の協働が20年以上続いているのは双方の熱意があればこそです。「災害時に行政ができることには限界があります。これからも活動を通じて自助や共助の重要性を伝えていきたいと考えています」（鈴木さん）。



▲煙に見立てたカーテンから逃げる訓練をする子どもたち



▲手づくりの地球の模型を使って「なぜ地震が起こるのか」を学ぶ



▲イベント「灯そう！心のあかり」では被災体験の作文を子どもたちが朗読する

ぼうさい No.106

令和5年3月17日

<https://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/index.html>



●編集・発行

内閣府(防災担当)普及啓発・連携参事官室
〒100-8914
東京都千代田区永田町1-6-1
中央合同庁舎第8号館
TEL:03-5253-2111(大代表)
<https://www.bousai.go.jp>



●編集協力・デザイン・印刷・製本

第一企画株式会社
〒380-0803
長野県長野市三輪1丁目16-17
TEL:026-256-6360
FAX:026-256-6385
URL:<https://www.d1k-c.jp>

●編集後記

2011年の東日本大震災で、私たちは大津波の力を思い知らされました。1995年の阪神・淡路大震災ではビルや高速道路の倒壊に衝撃を受けました。2004年の新潟県中越地震では山間集落での土砂災害に注目が集まりました。しかしいずれの地震も実際の被害は多様で、印象やステレオタイプで記憶されることには危うさもあります。100年前の関東大震災では、10万5,000人の犠牲者の9割は火災がもたらしました。一方で1万人以上もの人々がそれ以外の要因で亡くなっていることを、今一度認識すべきではないかと今回の特集を企画しました。お読みいただければ幸いです。

第38回
防災ポスターコンクール
入賞作品



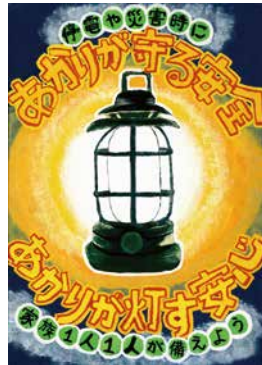
幼児・小学1・2年生の部
坂東 芽生 さん
(徳島県/アトリエ遠渡(高木教室))



小学3~5年生の部
小島 ゆきの さん
(神奈川県/アトリエENDO)



小学6年生・中学1年生の部
宮武 瑠南 さん
(香川県/大北お絵かき教室)



中学2・3年生の部
伊藤 虎生 さん
(東京都/葛飾区立水元中学校)



高校生・一般の部
須永 来怜亜 さん
(香川県/香川県立高松東高等学校)

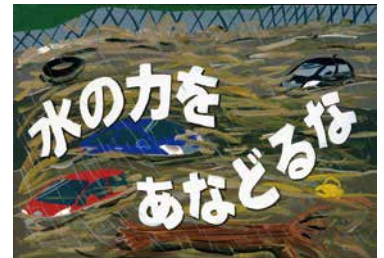
防災推進協議会会長賞(5作品)



幼児・小学1・2年生の部
細江 美和 さん
(福岡県/社会福祉法人正寿庵会みのり保育園)



小学3~5年生の部
廣田 結子 さん
(愛知県/だれでもアーティストクラブ)



小学6年生・中学1年生の部
柴 悠一郎 さん
(京都府/洛南高等学校附属中学校)

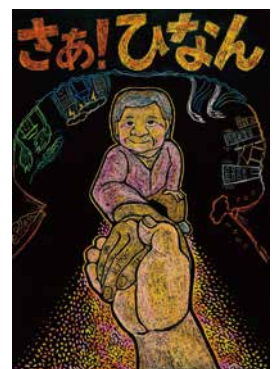
審査員特別賞(1作品)



堀野 ひろみ さん
(広島県/会社員)



中学2・3年生の部
堀 智理 さん
(東京都/文京区立第六中学校)



高校生・一般の部
古賀 結花 さん
(東京都/大学院生)

